

2024年6月19日(水)

老球の細道806

「オラ！ スペインへ 練習見学」④

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅲ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

国内でも外国でも旅の楽しみの一つは、その土地の食文化に触れることである。ご当地料理、地ビール、そしてコーヒー。私にとっての食を楽しむピック3である。食事は郷に入ったら郷に従え。日本食をしばし忘れてその土地の食文化を徹底的に楽しむ。

昼食は体育館「ロス・ギンドス」の近くにあるレストランで。最初にガスパチョが出た。トマト、キュウリ、ピーマンなどがたっぷり入った冷製スープ。次にビール。銘柄は忘れてたがウイスキーが混ざっているような独特の苦さが魅力だった。次に肉料理（私は牛肉を選択）とスペイン料理の定番・バエーリヤ。魚介や肉、野菜などの具材を米と一緒に炒め、スープ、香りつけのサフランを加えて煮込む米料理である。これにはまってしまい、ビールのお供に毎回食べていた。食後は当然コーヒー。スペインのコーヒーはガラスコップに注がれた熱いミルクコーヒーが定番であった。コーヒーカップではなかった。

食事の注文をとる時に手を挙げて自分の希望を伝えるが、ここではそれをやってはいけない。ではどうするか。1本指を指し示して挙げる。なぜ手を挙げてはいけないか。第二次世界大戦時のあのヒットラーを彷彿させるのでバツ（だめ）とのことであった。

【2014年 2月5日(水) 午後】

15時過ぎの遅い昼食をすませてまた体育館へ向かった。14時に学校を終えたあらゆる年代層の子どもたちがこの「ロス・ギンドス」体育館へ集まってきた。体育館の中ではサテライトチームとU-14の練習。外のアウトコートでは12コートをフルに使って色々な年代層のバスケットボール・スクールが行われていた。

ドイツでもそうであったが、スペインでも学校の部活動でバスケットボールをやるということはない。ここでもユニカハ・マラガのプロクラブチームが拠点となってプロを目指すアンダー・カテゴリー（U-14、U-15、U-16、U-18）とバスケットボールを楽しむスクールとに棲み分けされ、それぞれに専門のコーチがついて一貫指導する。

サテライトチームの練習は個人技の練習からスタート。二つのグループに分かれ、片方はフックシュート、もう片方はピックを想定したドリブルステップバックからのドリブルシュート。時間で区切り、交互に練習。チーム練習はディフェンスの練習が主で、ドライブに対するローテーションを重点的に行っていた。練習を見ていて感じたことは次の通り。
*ウオーミングアップドリルには必ずコーデイネーションドリルの要素が入り、そこにボールが加わり、最後はシュートで終わる。

*ドリルがすべてゲームで起こり得る場面を設定して組み立てられている実戦練習。

*練習メニューのバリエーションが豊富で同じドリルを長時間続けない。飽きさせない。

精魂つめて練習を見学したせいか疲れが出て血圧上昇。夕食も食わずにホテルへ帰り休んだ。興奮定まらず2時間ごとに目をさまし熟睡できなかった。南こうせつ『神田川♪』に唄われているように、若い頃何も怖いものがなく、どこでも寝れたのに、今は昔となった。同室の先生のイビキがさらにプレッシャーをかける。イビキとニキビとビキニを気にするようではタフガイになれないと「ゴルゴ13」が言っていた。冗談である。〈続く〉